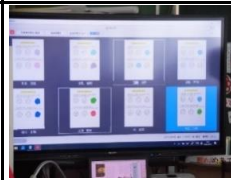












徳島 ICT活用モデル 実践例 小学校編

	活用モデルの 段階	教科・科目	タイトル	説明	学校名	写真
1	S	道徳	低学年における道徳科の振り返り	道徳科の学習について、価値の理解を深めた後に、振り返りでタブレット端末を活用した。低学年は文字入力が困難であることから、ワークシートを配付し、自分の今の思いに近いものを着色することで振り返りを行った。ワークシートは画面共有し、互いの振り返りを見ながら発表することで、学習のまとめを行った。	入田小学校	
2	S	道徳	互いの立場を明確にして	教材文を読み、自分の考え方がどの立場に近いかを、タブレット端末に入力し、学級で共有する。その後、それぞれの立場を尊重しながら、どうしてそれを選んだのかについての話し合いを進め、多面的・多角的に考え、きまりを守ることの大切さや道徳的価値などについての理解を深める。	加茂名小学校	
3	A	国語	想ぞうを広げて物語を書こう	4つの場面のうちの3つの場面の絵を見て、残る1つの場面を想像し、「時」「場所」「人物」などの物語の設定を考えてスライドに描く。その後、発表会を行い、自分の描いたスライドをタブレット端末で示しながら、物語を読み合う。スライドを画面上で拡大したり、質問したりしながら、互いの物語のよいところを見つけ合う。	半田小学校	
4	A	算数	かたちのなかにかたちがかくれんぼ	色板を用いて作った形から、「さんかく」や「しかく」を見付けたり、「しかく」は「さんかく」2枚で構成されていること、「ましかく」が2つで「ながしかく」ができることに気付いたりしたことを撮影した画面にペンで示し、可視化する。また、他者の気付きを聞き、実際に各自が作った形の画像で確かめることもできる。図形についての見方や感覚を豊かにする。	明神小学校	


徳島 ICT活用モデル 実践例 小学校編

	活用モデルの 段階	教科・科目	タイトル	説明	学校名	写真
5	A	生活	みなみっこまつりをしよう！	秋の自然物を生かして、幼稚園年長児が喜ぶおもちゃを作り、みんなで楽しく遊ぼうとする単元。おもちゃ作りの際、その時間自分が頑張ったところや工夫したところを写真で撮り、振り返りとして活用する。文章を書くことが難しい1年生でも、写真を撮ってマルを付けたり、矢印を書き入れることで、振り返りができる。また、どんどん改良されるおもちゃを記録として残せる。	板野南小学校	
6	A	理科	チョウを育てよう	チョウの幼虫と1人1台タブレット端末に映し出された幼虫の映像から、体のつくりの特徴を見つける。その後、口と脚のつくりが幼虫の生活にどのように役立っているのかについて予想する。1人に1個ずつのルーペと3～4人の班に1台ずつのタブレット端末のカメラを用いて、キャベツを食べたり、キャベツの上で移動したりする幼虫の口や脚のつくりとその動きを拡大して観察する。結果を共有し、幼虫の口と脚のつくりのそれぞれが、幼虫の動きに適したつくりであることを見いだす。	宮井小学校	
7	A	図画工作	トントンぎ打ち、コンコンビー玉	長い木の板にたくさんの釘を打ち込み、他の材料とも組み合わせて、班でビー玉が面白く転がるコースを製作する。製作途中の作品を撮影し、材料の使い方やよりよい転がり方についてどのように改良していくかを話し合う。話し合いの結果決まった、具体的な改善点を画像に文字で書き込む。ビー玉が転がる様子を動画で録画し、改良前と改良後において転がり方を比較・考察する。	里浦小学校	
8	A	外国語	I want to be a vet. ～将来の夢を伝え合おう～	いろいろな職業に関する語句の意味を理解し、将来就きたい職業を尋ねたり答えたりすることを目指す。MetaMoJi Classroomのスライドに貼り付けた音声データを聞き、発音する活動を繰り返すことで、児童は語句の言い方に慣れ親しみ、自信をもって英語でやりとりを行っている。また、教師に聞く、友達に聞く、タブレットで発音を確かめる等の課題解決方法から、児童は自分にとってよりよい方法を選んでおり、そのことが主体的な学びにつながっている。	児安小学校	

徳島 ICT活用モデル 実践例 小学校編

	活用モデルの段階	教科・科目	タイトル	説明	学校名	写真
9	A	音楽	音やリズムのおもしろさをかんじとろう	音楽を聴き、曲想と音楽の構造との関わりについて考える場面で、ロイロノートで思考ツールを配付し、思考ツールを活用しながら自分のお気に入りの部分について感じたことや聴き取ったことをまとめていく。共有シートを設定しておくことで、言葉で考えをまとめることが苦手な児童も仲間の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめていく。思考ツールに可視化した自分の考えを、タブレット端末に配付された音源とともに仲間を紹介することで、音楽に対する味わいを深める。	足代小学校	
10	A	学級活動	歯の健康チェックプログラムを作ろう	学級活動(2)では、自己の生活上の課題に気付き、その解決方法などについて意思決定した後、実際に実行していくことが大切である。本事例では、学級活動の授業で自分たちの歯みがき方法について学習し、その後、学んだこと・気を付けようと思ったことを歯みがきの実践時に意識できるよう、プログラミング学習で歯の健康チェックプログラム (Scratch) を作っている。児童が意思決定したことを、その後の生活改善に生かすことができる ICTを活用したプログラミング学習の好事例である。	榎渕小学校	
11	A	特別活動	「暑さに負けるな！心も体も元気いっぱい会」をしよう！	お互いに思ったことを十分には伝え合うことができていないという学級の現状の解決に向けて、学級全員で協力して楽しく体を動かす会をすることで、よりよい人間関係を築きたいという児童の自発的な思いから出された議題での話し合い活動の時間。リレー系の種目についてどのような工夫をすれば、さらに仲を深めることができるのかを話し合っている場面で、自分の考えや思いを学級全員で共有できるよう、具体的に伝えるために、1人1台タブレット端末を活用している。	相生小学校	

徳島ICT活用モデル 実践例 小学校編

	活用モデルの 段階	教科・科目	タイトル	説明	学校名	写真
12	R	総合的な学習の時間	環境学習	南小松島小学校と足代小学校の児童は、オンラインによる意見交換や共同活動を行っている。地理的環境が大きく異なるため、それぞれの地域での環境学習だけでは気付かない多様なものの見方や考え方を身に付けることができる。また、オンラインでの交流をきっかけとして、実際に互いの学校を訪問したり、一緒に海岸の清掃活動をしたりしている。さらに、共同でCM動画を撮影し、環境を守る取組を社会へ発信する啓発活動も行っている。	南小松島小学校 足代小学校	
13	R	総合的な学習の時間	誰ひとり取り残さない社会を実現するために、 自分にできることを考えよう	ホームステイがあった縁で、ネパールの暮らしや産業について学んだ。ネパールの山地ではコーヒーが栽培されており、品質はよいものの販路が十分でなく、人々の暮らしが厳しいと知り、ネパールコーヒーの魅力を伝える取組を始めた。どうすればコーヒーのよさが伝わるかについて、ロイロノートで考えた後、Google Slidesを用いてプレゼンをしたり、MetaMoji Classroomでチラシを作成したりした。阿波食ミュージアムやとくしまマルシェに出店し、ネパールコーヒーを販売した。	高志小学校	